エ　ウ(ア)(a)及び(b)の漁獲量について、次の(ア)又は(イ)のいずれかに該当する場合には、それぞれ当該(ア)又は(イ)に定める数値を当該船舶の漁獲量とみなす。

(ア)・(イ)　（略）

⑤～⑨　（略）

４・５　（略）

第６～第９　（略）

（別紙２－５　まあじ）

第１・第２　（略）

第３　資源管理の目標

まあじ資源は従来から太平洋系群と対馬暖流系群の２系群に分けた資源評価が行われてきたが、東シナ海での産卵に由来する当歳魚の一部は太平洋岸に加入すると考えられているだけでなく、太平洋系群の資源水準を左右するのは東シナ海からの加入群の多寡によるとも考えられている旨、資源評価報告においても記載されている。

このような特性から、まあじについては１つの系群として資源評価を行う方向も検討中であることも踏まえ、令和８管理年度のまあじ資源の管理に関しては、令和７管理年度に引き続き、資源管理の目標、漁獲シナリオ、漁獲圧力及び生物学的許容漁獲量は系群別に定めるものの、漁獲可能量は、両系群の生物学的許容漁獲量の合計値の範囲内で一括して行うこととする。なお、漁獲可能量の配分に際しては、太平洋系群への漁獲圧力の増大を避けるためにも、過去の漁獲実績の比率に基づくこととする。

１　目標管理基準値

⑴　まあじのうち資源評価において太平洋系群として扱われたもの（以下この別紙において「まあじ太平洋系群」という。）　52千トン（最大持続生産量を達成するために必要な親魚量）

⑵　まあじのうち資源評価において対馬暖流系群として扱われたもの（以下この別紙において「まあじ対馬暖流系群」という。）　273千トン（最大持続生産量を達成するために必要な親魚量）

２　限界管理基準値

⑴　まあじ太平洋系群　14千トン（最大持続生産量の60パーセントを達成するために必要な親魚量）

⑵　まあじ対馬暖流系群　103千トン（最大持続生産量の60パーセントを達成するために必要な親魚量）

３　禁漁水準値

⑴　まあじ太平洋系群　1.5千トン（最大持続生産量の10パーセントが得られる親魚量）

⑵　まあじ対馬暖流系群　14千トン（最大持続生産量の10パーセントが得られる親魚量）

第４　漁獲シナリオ

１　目標管理基準値に係る漁獲シナリオ

⑴　まあじ太平洋系群　令和７年度（2025年度）の資源評価に基づき、親魚量が令和18年（2036年）に、少なくとも50パーセントの確率で、第３の１⑴の目標管理基準値を上回るよう、漁獲圧力を調整する。

⑵　まあじ対馬暖流系群　令和７年度（2025年度）の資源評価に基づき、親魚量が令和18年（2036年）に、少なくとも50パーセントの確率で、第３の１⑵の目標管理基準値を上回る状態を維持するよう、漁獲圧力を調整する。

エ　ウ(ア)(b)の漁獲量について、次の(ア)又は(イ)のいずれかに該当する場合には、それぞれ当該(ア)又は(イ)に定める数値を当該船舶の漁獲量とみなす。

(ア)・(イ)　（略）

⑤～⑨　（略）

４・５　（略）

第６～第９　（略）

（別紙２－５　まあじ）

第１・第２　（略）

第３　資源管理の目標

まあじ資源は従来から太平洋系群と対馬暖流系群の２系群に分けた資源評価が行われてきたが、どちらの系群も主要産卵場は東シナ海の共通の水域であり、両系群が独立した系群であると判別できないだけでなく、太平洋系群の資源水準を左右するのは東シナ海からの加入群の多寡によるとも考えられている旨、資源評価報告においても記載されている。

このような特性から、まあじについては１つの系群として資源評価を行う方向も検討中であることも踏まえ、令和７管理年度のまあじ資源の管理に関しては、令和６管理年度に引き続き、資源管理の目標、漁獲シナリオ、漁獲圧力及び生物学的許容漁獲量は系群別に定めるものの、漁獲可能量は、両系群の生物学的許容漁獲量の合計値の範囲内で一括して行うこととする。なお、漁獲可能量の配分に際しては、太平洋系群への漁獲圧力の増大を避けるためにも、過去の漁獲実績の比率に基づくこととする。

１　目標管理基準値

⑴　まあじのうち資源評価において太平洋系群として扱われたもの（以下この別紙において「まあじ太平洋系群」という。）　60千トン（最大持続生産量を達成するために必要な親魚量）

⑵　まあじのうち資源評価において対馬暖流系群として扱われたもの（以下この別紙において「まあじ対馬暖流系群」という。）　254千トン（最大持続生産量を達成するために必要な親魚量）

２　限界管理基準値

⑴　まあじ太平洋系群　15千トン（最大持続生産量の60パーセントを達成するために必要な親魚量）

⑵　まあじ対馬暖流系群　107千トン（最大持続生産量の60パーセントを達成するために必要な親魚量）

（新設）

第４　漁獲シナリオ

１　目標管理基準値に係る漁獲シナリオ

⑴　まあじ太平洋系群　令和２年（2020年）の資源評価に基づき親魚量が令和13年(2031年)に、少なくとも50パーセントの確率で、第３の１⑴の目標管理基準値を上回るよう、漁獲圧力を調整する。

⑵　まあじ対馬暖流系群　令和２年（2020年）の資源評価に基づき、親魚量が令和13年（2031年）に、少なくとも50パーセントの確率で、第３の１⑵の目標管理基準値を上回る状態を維持するよう、漁獲圧力を調整する。